

2017年5月28日(日)

主 題:「変えることのできない二つの事」

—安全で確かな錨—

テキスト:ヘブル人への手紙6章13—20節

はじめに

・はじめに前回の復習をしましょう。

前回の説教主題は、「もっと良いことのために生きる」(副題:「前進することの喜び」)でした。神は今の時代にも同じように、「もっと良いことのために生きる」ことを望んでおられます。そして私たちの神は「愛の神」であり、決して裁きの神、恐ろしい神ではありません。「恵みの神」です。

・ですから私たちは常に、神の恵みを意識し、神は恵み深いお方であることを思い起こすことは大切です。それは日々のディボーションを通して、覚えることができます。そして、次の大切な3点を学びました。

- 1) 神の救いは「恵み」である
- 2) 神は愛の「奉仕」を忘れない
- 3) 神の約束は必ず「成就」する

・このように著者は、5章11節から6章12節まで、ユダヤ人クリスチャンへ、信仰的に成長するように勧め、また励ましてきました。そして本論である今日のテキストに入りました。

・私たちが生きているこの世の中は、本当に不確かです。それはこの世の中(社会)を構成する私たちが、すぐに心変わりし不確かな者であるからです。私たちは、実のところ、自分のことすら本当にはよく分からない者ではないでしょうか。

・イエスの弟子であったペテロを思い出してください。

主イエスから「今夜、鶏が2度鳴く前に、あなたはわたしを知らないと言います。」言われました。その時、ペテロはこう答えました。

「たとい、あなたと一緒に死ななければならぬことになっても、私は、決してあなたを知らないなどと申しません。」

・ペテロはその日の晩、3度も立て続けに、主イエスを知らないと言って否んでしまいました。皆さん！ これはペテロ一人だけの問題ではありません。私たちも彼と全く同様であることを教えている事実です。

・では、私たちはどう生きれば良いのでしょうか？ それは変わらないお方を信頼し共に歩むことです。著者が言いたい点は、その変わらないお方(神)と共に、私たちが確かな人生を歩むようにということです。神はそのために、「約束のことば」と「誓いのことば」を与えてくださいました。私たちが、神の「約束」と「誓い」に生きるならば、神は真実なお方ですから、絶対に安全であると強調しました。

・私たちの神は素晴らしい贈物を、信じる者にお与えくださいました。

それは永遠に変わらない真理であります。今日は次の2点について学びましょう。

大切なポイント

1 変わることはない神の約束

1) 神の約束

- ・私たちは希望がなければ、前進しようとする動機も失われます。そして無気力になってしまいます。そのために、神は私たちに希望の約束を与えてくださいます。神が望んでおられるのは、私たちとの関係を深めていくことです。
- ・しかし、どれほど素晴らしい約束でも、私たちがそれを信じなければ意味がありません。神の約束は確かで、ただ一つとして破られることはありません。

- ・アブラハムはその良い例です。

6:13 神はアブラハムに約束されたとき、ご自分よりすぐれたものをさして誓うことがありえないため、ご自分をさして誓い、

6:14 こう言われました。「わたしは必ずあなたを祝福し、あなたを大いにふやす。」

「必ず」とは「豊かに」、「たくさん」のという意味で祝福を強調している言葉です。

これは神がアブラハムに与えられた約束です。著者は言いました。

6:15 こうして、アブラハムは、忍耐の末に、約束のものを得ました。

- ・アブラハムは神からこのような約束を与えられた時、すでに老齢でした。後継になる子はいませんでした。しかし彼は、この時から十数年が過ぎて、神はアブラハムに言われました。創世記17章

17:15 神はアブラハムに仰せられた。「あなたの妻サライのことだが、その名をサライと呼んではならない。その名はサラとなるからだ。

17:16 わたしは彼女を祝福しよう。確かに、彼女によって、あなたにひとりの男の子を与えよう。わたしは彼女を祝福する。彼女は国々の母となり、国々の民の王たちが、彼女から出てくる。

- ・アブラハムはこの時100歳、サラ90歳でした(創世記17:17)ですから常識的に考えて、このような事はありません。しかしこれは事実となりました。そして神の約束のように、約束の子イサクが与えられました。

- ・みことばは次のように言います。創世記

15:6: 彼は主を信じた、主はそれを彼の義と認められた。

- ・約束の子イサクが生まれてから12、3年経った時、神はアブラハムに「イサクを捧げよ」と言われました。これは大いなる矛盾でした。アブラハムからイサクを取り上げてしまう事は、神が約束を破る事を意味します。跡継ぎができないことになります。
- ・しかしアブラハムは神の命令に従い、イサクを神の命令に従い献げる決心をしました。

創世記22:10-12

22:10 アブラハムは手を伸ばし、刀を取って自分の子をほふろうとした。

22:11 そのとき、主の使いが天から彼を呼び、「アブラハム、アブラハム。」と仰せられた。彼は答えた。「はい、ここにあります。」

22:12 み使いは仰せられた。「あなたの手を、その子に下してはならない。その子に

何もしてはならない。今、わたしは、あなたが神を恐れることがよくわかった。

あなたは、自分の子、自分のひとり子さえ惜しまないでわたしにささげた。」

- ・神はその時、代償の雄羊を備えておられました。そしてその場所は、アドナイ・イルエ、すなわち「主の山の上には備えがある。」と呼ばれるようになりました。神はこのアブラハムに対して、再び次のように誓われたのでした。創世記
- ・22:16 わたしは確かにあなたを祝福し、あなたの子孫を。空の星、海辺の砂のように数多く増し加えよう。
- ・著者は、次のように言いました。

6:15「こうして、アブラハムは、忍耐の末に、約束のものを得ました。」

「忍耐の末に」は口語訳聖書では、「根気よく待って」と訳されています。神の約束

束はすぐには与えられませんでした。しかし、彼は忍耐によって祝福に与りました。

- ・本当の意味での神の祝福は、2千年後のキリストの誕生によって初めて実現しました。
- ・私たちはこのように、神に祝福されたアブラハムの生涯から学ぶことができます。しかしアブラハムが与えられた約束を、信じなかったならば意味がありませんでした。私たちの人生も同じです。イエスを信じたからと言って、直ちに全てがバラ色の人生に変わるものではありません。多くの場合、その逆です。キリストを信じたために、家族に誤解されたり、世間と妥協できずに辛い立場に立つこともあります。
- ・また神のためにすべてを捧げていきたいと願っても、それがすぐに叶えられないことがあります。しかし私の信仰生活(56年間)を振り返ると、神は私の願い以上に、良き時を備え、必要を満たしてくださいました。神の約束は必ず実現します。もう一つ、大切なことがあると著者は言いました。

2)「神の誓い」

- ・6:17 そこで、神は約束の相続者たちに、ご計画の変わらないことをさらにはっきりと示そうと思い、誓いをもって保証されたのでした。
 - ・ここで大切な事は、「誓い」です。不動産の売買、賃貸、労働者の雇用などには、すべて契約書が必要です。そして、それに一度署名捺印すれば、その契約は容易に取り消すことはできません。ですから、私たちよく注意して契約を結ぶものです。
 - ・「誓い」は「契約」よりも重みがあります。イエスはこう言われました。マタイ
- 5:35 地をさして誓ってもいけません。そこは神の足台だからです。エルサレムをさして誓ってもいけません。そこは偉大な王の都だからです。
- ・人間は「誓い」をしても、守られないものです。弱い人間は約束しても守られないものです。ですから、私たちは誓いますと言いますが、本当のところ「誓い」は神の領域なのです。
 - ・ここでは著者は神ご自身が、「誓いを持って保証された」と言いました。この契約の捺印は、イエス・キリストの尊い血によってなされました。キリストの十字架が、決して変わることはない保証となってくださいました。
 - ・6:18 それは変えることのできない二つの事からによって、一神は、これらの事からのゆえに、偽ることができません。一前に置かれている望みをとらえるためにのがれて来た私たちが、力強い励ましを受けるためです。
 - ・この手紙が書かれたローマ時代は、迫害が非常に厳しい時代でした。聖徒たちは民衆の冷たい視線を受け、ローマ政府からは弾圧などがありました。しかし聖徒たちは、国籍

はこの地上ではなく、天にあることを信じていました。それが前に置かれている望みに生きる聖徒たちの姿でした。

- * 皆さん！ 著者が語る「変えることのできない二つの事がら」とは、「神の約束のことば」と、「神の誓いのことば」のことです。神はそのご性質にゆえに、約束を変えたり、破棄したりすることは不可能なのです。なんとという幸いではありませんか。
- ・不確かな世の中(社会)で、私たちはどのような生き方をしているのでしょうか……。

2 変わることのない神の計画

- ・私たちは、この世に希望を置くことのでなく、神と神の国に希望を置くようになった者です。「変えることのできない二つの事がら」は、信じる者にはこれ以上ない励ましとなります。私たちの信仰生活を守られ、天の御国に入るようになるということは確実なことです。
- ・その保障となるのが、イエスがすでに天の御国(幕屋)に入られたという事実です。イエスは祭司であるばかりか、天の御国に入る「先駆け」となられました。イエスを信じる私たちは、イエスについて天の御国に入ることができるようになりました。これは旧約聖書時代、レビ的祭司制度には見られなかった新しい特徴であります。
- ・神がアブラハムにあって、「約束のことば」と「誓いのことば」を成就されたように、今の私たちにも成就してくださいませ。それは恵みによって神の子とされた者に与えられた特権です。

- ・著者は次のように言いました。

6:19 この望みは、私たちのたましいのために、安全で確かな錨の役を果たし、またこの望みは幕の内側にはいるのです。
- ・当時のクリスチャンは、荒れ狂う嵐の大海原に浮かぶ舟のようなものでした。嵐にもまれる舟の頼りになるのは、「錨」です。そしてキリストにある希望こそ、私たちの魂を守り、支える安定した「錨」なのです。ですから、信仰を捨てることは、船が「錨」を捨てるようなものです。

『例 話』 写真:嵐の灯台の傍に立つ一人の男
- ・大西洋に面した米国の海岸に、一つの無名の灯台があります。そこで取られた劇的な写真があります。その灯台の写真は次のようです。
- ・猛烈な大西洋の嵐によって起こされた激しい大波が、今にもその灯台ごと一気に飲み込んでしまいそうな場面を取ったものです。しかし逆巻く波に、文字どおり四方を囲まれた灯台には、灯台守が安全な場所に立って、普段と変わらない様子で荒れ狂う海を見渡しているのです。
- ・彼のまわりには、巨大な波がぶつかりあっているにもかかわらず、彼は無頓着に両手をズボンのポケットに入れて立っているのです。
- ・この写真を見るとき、私たちが人生で直面する多くの激しい嵐(試練)のことを思わずには入られません。私たちが病気や心の葛藤、霊的な攻撃で苦しむような時、神が私たちの避け所となってくださるのです。神が守ってくださるので、どんな試みが訪れようとも、私たちは恐れることがない確信を持つことができます。

- ・私たちの信仰生活は、波にもたあそばされるような小舟のようになっていませんか。

私たちは安全で確かな「錨」をどこで見出しているでしょうか。船が港や沖合に停泊する時、流されないように錨を下ろします。錨が海底に降ろされているならば、どんなに海面は波立ち荒れても、船は錨によって固定され、流されたり、ひっくり返ったりしないのです。

- ・同じように、私たちが神のもとに錨を降ろして入れば、私たちのたましいは安全であり、揺らぐことはありません。

ヘブル人への手紙には、私たちの人生の問題の答があります。それは「神の約束のことば」、「神の誓いのことば」、そしてイエスが天の御国(幕屋)に入られたという事実が、私たちにとって「安全で確かな錨」であります。

- ・皆さん！ 著者はここで、キリストの福音の中で一番大切なことは何であるかを述べています。すなわち、ユダヤ人が長いこと厳守してきた伝統的儀式などについて学び直すことはしないで、キリストの福音の中で欠くことのできない最も大切なことを述べました。
- ・それは大祭司が一年に一度聖所に入り、罪の贖いをするのではなく、イエス・キリストがご自分の血で全人類の罪を贖ってくださったということです。動物の血は私たちを完全に贖うことはできません。それはやがて来られるメシアの「型」でした。
- ・キリストの十字架、この事実こそが私たちにとって真の希望なのです。このキリストの十字架による罪の赦しこそが、最も大切な福音です。これによって私たちは自由に至聖所へ入ることができるようになりました。これ以上の神の贈り物はありません。なんといい幸いではありませんか。旧約聖書時代、人々が得ることができなかった祝福を、新約聖書時代の今、私たちは神からの「恵み」として受けとめることができるようになりました。

ま と め

主 題:「**変えることのできない二つの事**」

—安全で確かな錨—

- ・著者はヘブル人クリスチャンへ、「変えることのできない二つの事がら」を伝えました。「変えることのできない二つの事」とは、「神の約束のことば」と、「神の誓いのことば」のことです。神の約束と誓いに生きる聖徒こそ、安全な人生の旅路を送る人です。
- ・そして幸いなことは、その人生の旅路を送る者には幸いな希望が与えられていることです。

6:19 この望みは、私たちのたましいのために、安全で確かな錨の役を果たし、またこの望みは幕の内側にはいるのです。

- ・「変えることのできない二つの事」を信じ歩むことこそ、安全で確かな錨であることを覚えてください。その人生には希望があります。その希望とは;

- 1 たましいのために安全で確かな「錨」である
- 2 天の御国(幕屋)に入る確信である

* *God bless you!*